

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号について

平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

平成30年度病害虫発生予察特殊報第2号

1 病害虫名：オリーブ立枯病（仮称）

Ralstonia solanacearum

2 作物名：オリーブ

3 発生確認の経過

平成30年9月、県内のオリーブ栽培園で、葉枯れや萎凋枯死する症状（図1）が認められた。発病株の枝や幹の維管束には変色（図2）が確認され、そこから細菌と考えられる菌泥の漏出（図3）が見られた。さらに、分離株（図4）の細菌学的性質の調査および遺伝子解析から *Ralstonia solanacearum* phylotype I（アジア型）と同定された（宮崎県総合農業試験場 生物環境部）。

4 病原菌の特徴

- 1) *Ralstonia solanacearum* はトマト、ナス等の野菜類、その他多くの作物に青枯病を引き起こすことが知られている多犯性・土壌伝染性の植物病原細菌である。
- 2) 本病原菌によるオリーブの病害は、国内では香川県（平成30年3月27日特殊報発表）及び鹿児島県（平成30年5月24日特殊報発表）、海外ではブラジル、中国等で発生が確認されている。

5 防除対策

- 1) 現在、本病に対する登録農薬はなく、一度汚染された土壌から本病原菌を除去することは困難であるため、耕種的防除が基本となる。
- 2) 発病樹は、速やかに抜根し、周辺土壌も含めてほ場の外に持ち出して処分を行うとともに同じ場所に植え付けない。
- 3) 園地へ出入りする時は服、帽子、靴に付いた植物残渣や土を十分落とし、靴、手袋などの消毒を行う。
- 4) 管理作業での感染を防止するため、汁液が付着する剪定バサミやノコギリなどの用具の消毒（70%エタノールや次亜塩素酸ナトリウム水溶液）を行う。
- 5) 新植時は既発生地からの苗の導入に注意するとともに、過去にナス科作物等で青枯病が発生したほ場の利用は避ける。



図1 葉枯れ、萎凋枯死したオリーブ樹



図2 維管束が変色した枝



図3 水中における菌泥の漏出



図4 青枯病菌の選択培地(原・小野培地(原・小野, 1982))上に形成されたコロニー

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 寺本

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>